

森羅万象は、因果の秩序が織りなす複雑なネットワーク・システムだ。だからわれわれは、秩序探究マシンとなつて、結果を見せられる原因を知ろうとする。また、秩序創造マシンになり、自分で原因を作つてその結果を出そうと努力する。

よりよい秩序の建設 サイエンス、社会にも寄与

から実体というべき秩序が浮かび上がってくる、あのフワフワする雰囲気一度知つたら忘れられないからだろう。自然界は、その秩序を支配している相互作用をサイエンスの原理・法則で解析すれば理解できる。人間社会の秩序形成や崩壊は、個人から国家までの諸要素の性格やルールの相互作用を知れば読める。

平成 27 年 6 月 9 日

文部科学省が6月、全国の国立大学法人に対し、第3期中期目標・中期計画(2016~21年度)の策定にあたり、次のような通知を出した。『教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むべきではないか』

文科省の「通知」 大学は批判の前に自省を

の逆をわざとする悪い癖もあった。日本の現状は残念ながら、前記のように知識収納最優先だ。その証拠に、大学入學試験は知識の在庫リストの提出みだになつてきている。本当は、この根本からたき直さなければならぬのに、相変わらず文科省の通知という枝葉の剪定(せんてい)で済ませようとしている批判態度が問題だ。

平成 27 年 6 月 19 日

2015年(平成27年)6月30日(火曜日)

読者の方から、私が5月10日付の本欄で紹介した逸話に対する思いがけない批判を頂き、びっくりしてしまいました。それは物理学者・寺田寅彦の「難問にぶつかったら、とにかく考えて考えて考え抜け」という意見を愛して、理化学研究所の所長だった大河内正敏が言った名言に關してだ。

真に訴えたいこと 短い文章、細心の配慮必要

に読んでいない。大河内は、本を読む前に自分で考えると言っているのだから「本を勉強するな」とは言っていない。つぎに批判者には、知識ばかり頭に詰め込む日本の教育に対する関心がないか、応用思考力がないということだ。もしこの今日の学校教育の問題を日ごころ心配していたら、それを百年も前に的確に指摘したこの先人の言葉に(私自身もそうであったように)瞬間的に共鳴したはずだ。

平成 27 年 6 月 30 日